



平成23年度 こども歴史館 お正月特別企画

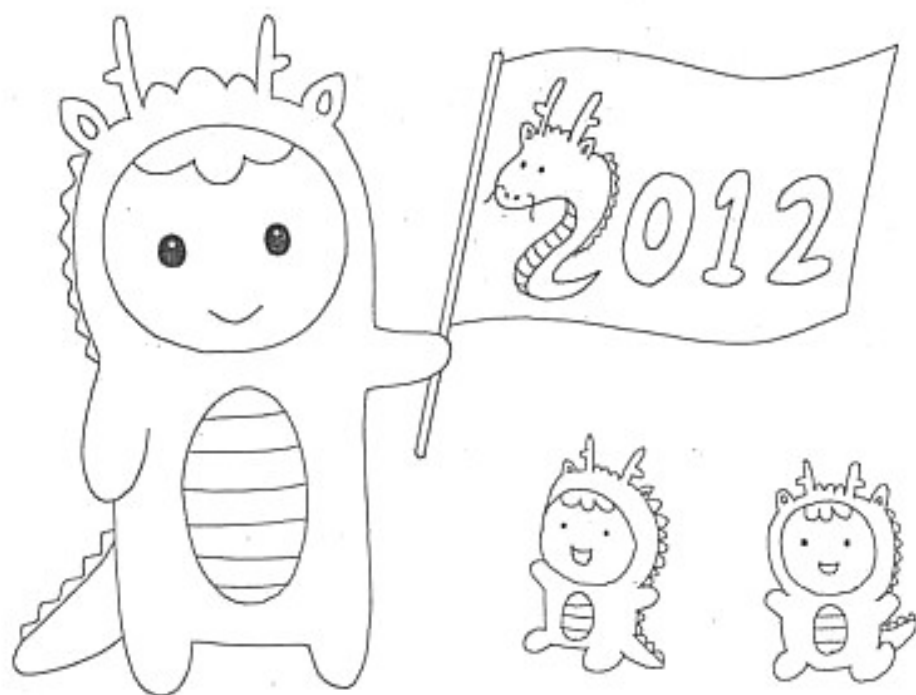


しょうがつ あそ じん お正月遊びのタツ人になろう！！

こども歴史館では、「独楽」「羽子板」「双六」「カルタ」「福笑い」など、

いろいろなお正月遊びの道具を用意しているよ。

古くから伝わる日本のお正月遊びをみんなも体験してみよう！



期間：平成23年12月27日(火)～平成24年1月15日(日)

はくぶつかん やま
く博物館のお休み：平成23年12月29日(木)～平成24年1月4日(水)、1月10日(火)＞



かやん じかんちゅう
* 開館時間中は、いつでも体験できます。



とうほくれきしはくぶつかん
場所：東北歴史博物館 3階 こども歴史館



にほんのしょうがつ



12月も終わりに近づくと、家の大掃除をし、門松をたてるなど忙しくなります。そして元旦になると「あけましておめでとう」のあいさつをしてから雑煮を食べたり、お屠蘇というお酒を飲んだりして新年を祝います。

なぜこのようなことをするのかというと、1年のはじまりの「お正月」にやってくる「年神様」をお迎えするためです。お正月のいろいろな行事は「年神様」に「今年もたくさんお米がとれますように」

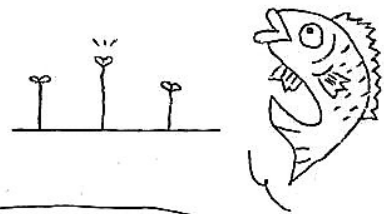
「新しい年も家族が健康でしあわせでありますように」などの願いと感謝の気持ちを形にしたものなのです。

※ 門松
年神様の目印になるように玄關にたてる松のこと

お正月は1年のはじまり

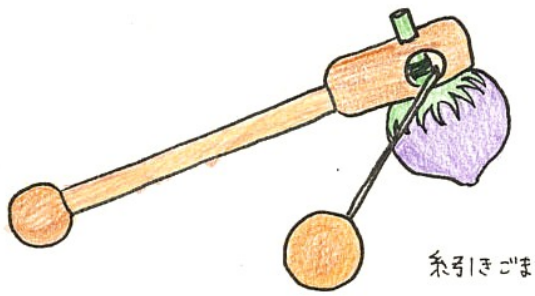
むかし1年は種をまく春と収穫をする秋の2つに分けられていました。このことから春のはじめが1年のはじめとされました。

春はたくさんの命が生まれて「芽が出る」ということから「芽出度い」といわれるようになりました。

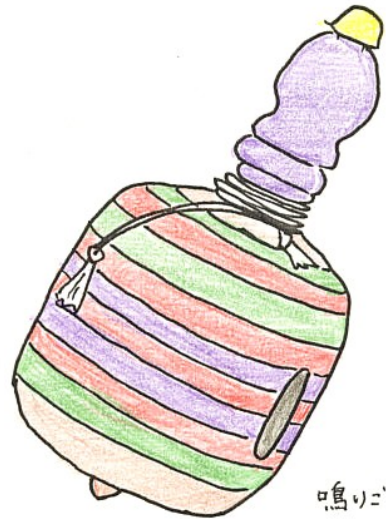


このコーナーにあるおもちゃも縁起のよいもので、1つ1つに意味があるんだよ。歴史を知って、遊ぶともっと楽しめるはず！お正月遊び大辞典はじまるよ！！





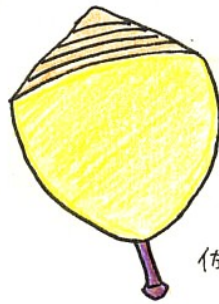
糸引きごま



鳴りごま



人形ごま



佐世保ごま



金矢車ごま



追っかけごま



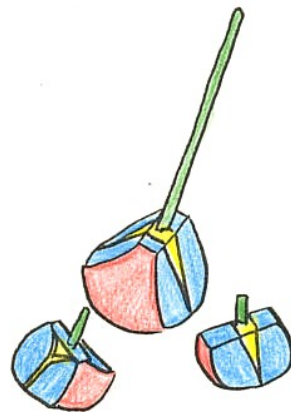
コロリごま



逆立ちごま



たまごごま



松原ごま

江戸時代に大流行

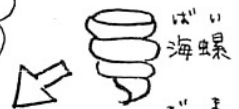
独楽は、唐の時代(618~907年)の中国から、当時「高麗」と呼ばれた朝鮮半島を
通って日本に伝わったため、「こま」という名前がついたといわれています。

貴族の遊びだった独楽まわしが一般のこともたちの間に広まったのは、
江戸時代(1600~1867年)のことです。いろいろな種類の独楽が作られ、「曲独楽」
「寿命くらべ」「当て独楽」「けんか独楽」など、遊び方もたくさん生み出されました。
しかし、あまりに流行したため、禁止令が出されることもあったのです。

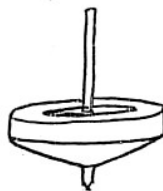
いろいろな独楽



日本の独楽の種類と技の数は、
世界で一番多いといわれているんだよ!



木しん独楽
心棒が木で
できています。



博々独楽
(曲独楽)

心棒は金鉄。
長く回るため、曲芸
に使われます。



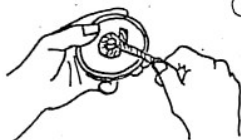
貝独楽

もともとは「海螺」という巻き貝
が使われていましたが、
明治時代(1868~1912年)に
入ってから、鉄でつくられる
ようになりました。

まわしてみよう

(右きき用。*左ききの人は、向きを反対にしてやってみてね。)

まき方



① 上の心棒に
とけいまわりに
ひもを一回転
させてひっぱる。



② 左手でこまのはしを
つかむように
もちかえる。

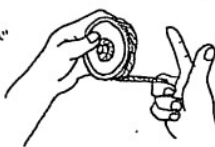


③ ゆるまないように
とけいまわりに
まいていく。

もち方



① ひもを10cmくらい
たらし、その先を
右手の小指と薬指
の間にはさむ。

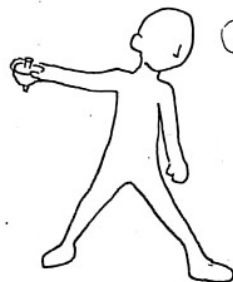


② 中指までの3本の
指で、ひもをにぎり、
のこり2本をひらく。



③ 人さし指と親指で、
こまをつかむように
もつ。

なげ方



① 左足を前に出し、
右手を後ろに
かまえる。



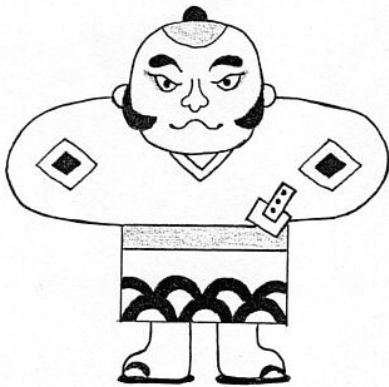
② ひじをのびし、
かたより下を
とおしてうでを
ふる。



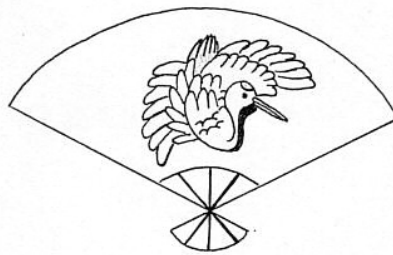
③ 前でうでをとめ、
人さし指と親指をはなす。
こまがちゃくちするまで
うではこのまま
とめておく。

凧は平安時代(794~1191年)に中国から伝わったといわれています。もともとは、年のはじめに両親が男の子の誕生を祝い、ぶじな成長をいのるためにおこなわれていました。こどもにとっても、ねがいごとを凧にのせて天にとどけるという意味もありました。

一般の人々のあいだに広まったのは江戸時代(1600~1867年)のことで、全国各地にいろいろな凧がうまれました。



女凧



扇凧

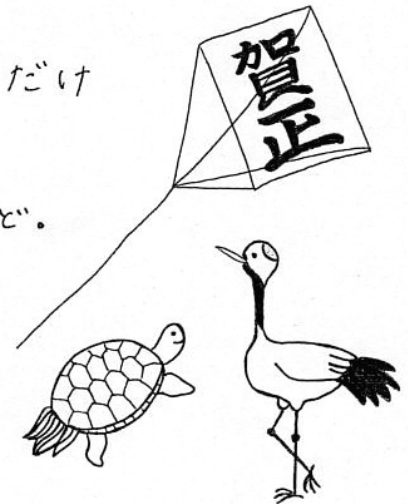


将棋凧

凧の凧からは、武士や漢字を大きく一文字だけ書いたものが人気でした。

女子で書かれた字… 鶴鳥・亀・音龍・福など。

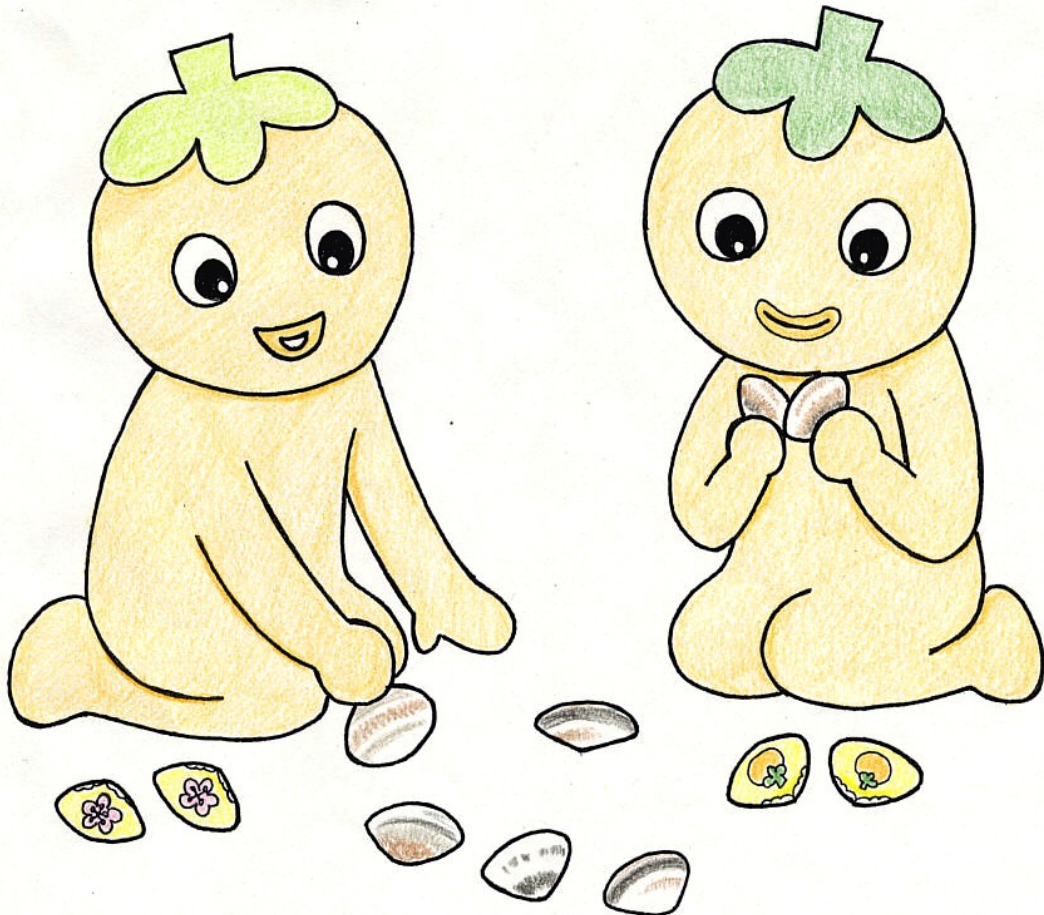
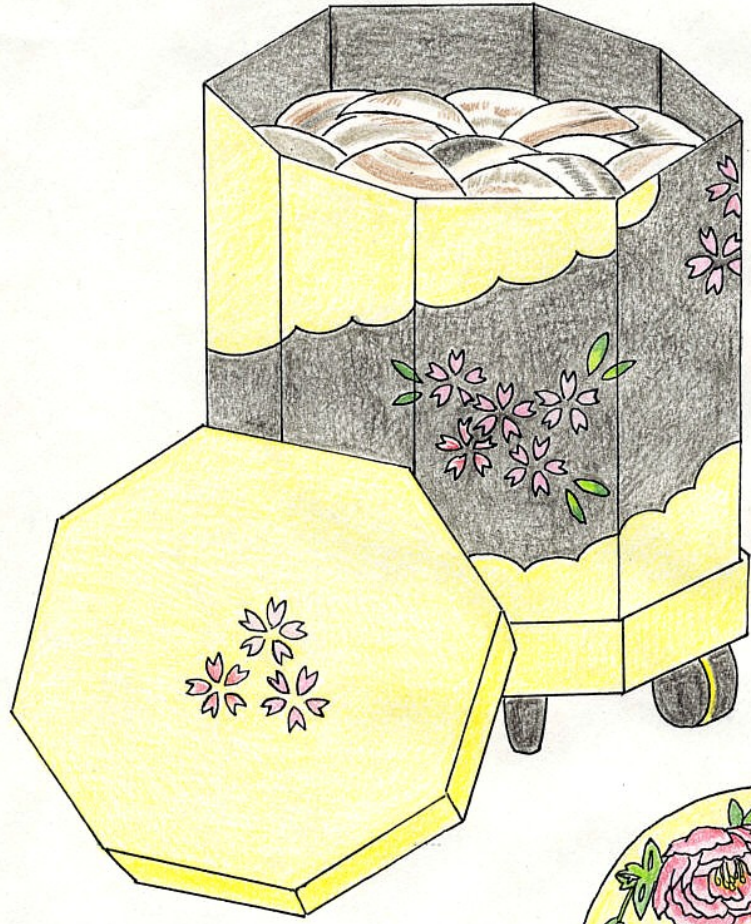
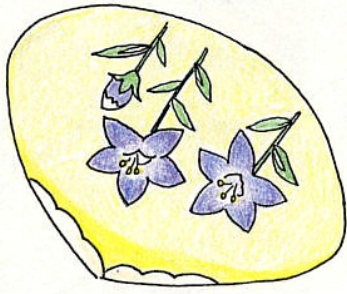
凧のよびかたも地方によってちがい、東京では「たこ」、関西では「いか」、東北では「てんぐばた」などといわれます。



あそびかた

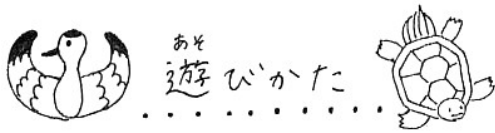
糸でうまく凧をあやつり、風のカで空に浮かばせます。

どちらがよくあがるかをきょうそうしたり、ほかの凧にじぶんの凧をからみつけて糸を切って落とす「けんか凧」とよばれるあそびかたもあります。



貝合わせの歴史

貝合わせは平安時代(794~1192年)におこなわれた遊びのひとつです。貴族たちがそれぞれめずらしい貝をもちより、形や色などの美しさをくらべ合いました。ところが平安時代の終わりごろから鎌倉時代(1192~1333年)にかけて、貝合わせは二枚貝をふたつにわけ、対となる貝をあわせてとる「貝おおい」ともよばれる遊びに発展します。貝の内がわには歌や絵が書きこまれるようになり、これが今の百人一首やいろはかるたのもとになっています。



① 貝を180こ用意し、右貝と左貝にわけ、右を「出貝」、左を「地貝」とします。



みだりがい
左貝
(地貝)



みまががい
右貝
(出貝)

② 内がわが見えないように地貝をふせてまるくならべ、まんなかをすこしあけます。

③ ならべた地貝のまんなかのあいたところに、出貝をひとつふせたじょうたいで出します。

④ 出された貝と組になる貝を、地貝の中から、色・形・もようなどを見ながらさがします。ふたつの貝をくらべ、ぴったり合えばその人のものになります。



貝合わせの貝には、おめでたい意味のある動物や植物の絵がかかっているよ。すこしだけしょうかいするね。

しろ
白うさぎ



せいめいりやく
生命力、
ゆたかさ
豊かさ

うめ
梅



じゅんすい
糸屯米雑さ、
ながい
長生き

ぼたん
牡丹



こうふく
幸福、
うつくし
美しさ

🌸 なぜお正月に遊ぶの？

羽根つきの羽根は、「ムクロジ(無患子)」という植物の
実に鳥の羽根をつけたものです。その羽根が蚊を食べる
トンボに似ていることから、お正月に羽根つきをすると、
夏に子どもが蚊にさされないおまじないとされたとい
われています。

また羽子板は1年の厄(悪いもの)を払ってくれる
縁起がよいものとして、女の子が生まれた家の初めて
のお正月におくる風習があります。その羽子板は豪華
な飾りをしたものが多く、観賞用としておくられました。

羽根つきは、江戸時代(1600~1867年)に入ってから、女の子
の遊びとして定着し、だんだん町人の間にも広まって
大流行しました。

🌸 遊び方

「追い羽子」「遣り羽子」

…2人以上で1つの羽根を突き合う。
羽根を落とした人が負け。

「揚げ羽子」

…1人で数え歌に合わせて突く。
突いた数が少ない方が負け。

〈数え歌〉地域によって、いろいろな歌が歌われました。

・「一とめ、二とめ、三やかし、四ごめ…」

・「いちじく、にんじん、さんしょに、しいたけ…」

※ 負けた人は顔に墨すみをぬられるというルールもあります!

絵又六

私たちがよく目にする又六は、「絵又六」といいます。鎌倉時代(1192~1333年)後半頃、修行中の僧に仏教(天台宗)の教えを覚えさせるためにつくられたのがはじまりです。

江戸時代(1600~1867年)初期に、絵が入るようになり、「絵又六」が誕生しました。その後又六は教育のためだけでなく、旅の道のりを表現した「道中又六」や「源氏又六」、「百人一首又六」など、楽しむものとしてもつくられるようになりました。

明治時代(1868~1912年)になると、印刷技術の進歩によって、一度にたくさんつくられるようになり、雑誌のお正月号のふろくとして毎年使われるようになりました。

<遊び方>

- 何人でも参加できます。駒は1人1つです。
- サイコロを振って出た目の数の分進み、早く「上り」に進んだ人が勝ちです。

盤又六

もう一つの又六は、将棋盤や囲碁盤に似た木の台を使って行う「盤又六」です。中国から日本に伝わった遊びで、奈良時代(710~793年)にはもう、貴族の間でさかんに行われていました。

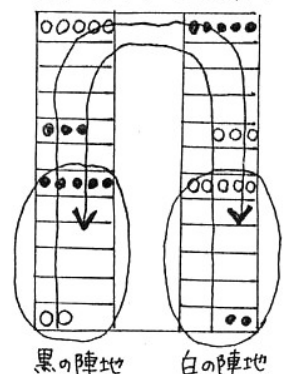
賭け事に使われることが多かったため、いつの時代にも禁止令が出されてきました。江戸時代(1600~1867年)後半頃には、ほとんど行われなくなりました。

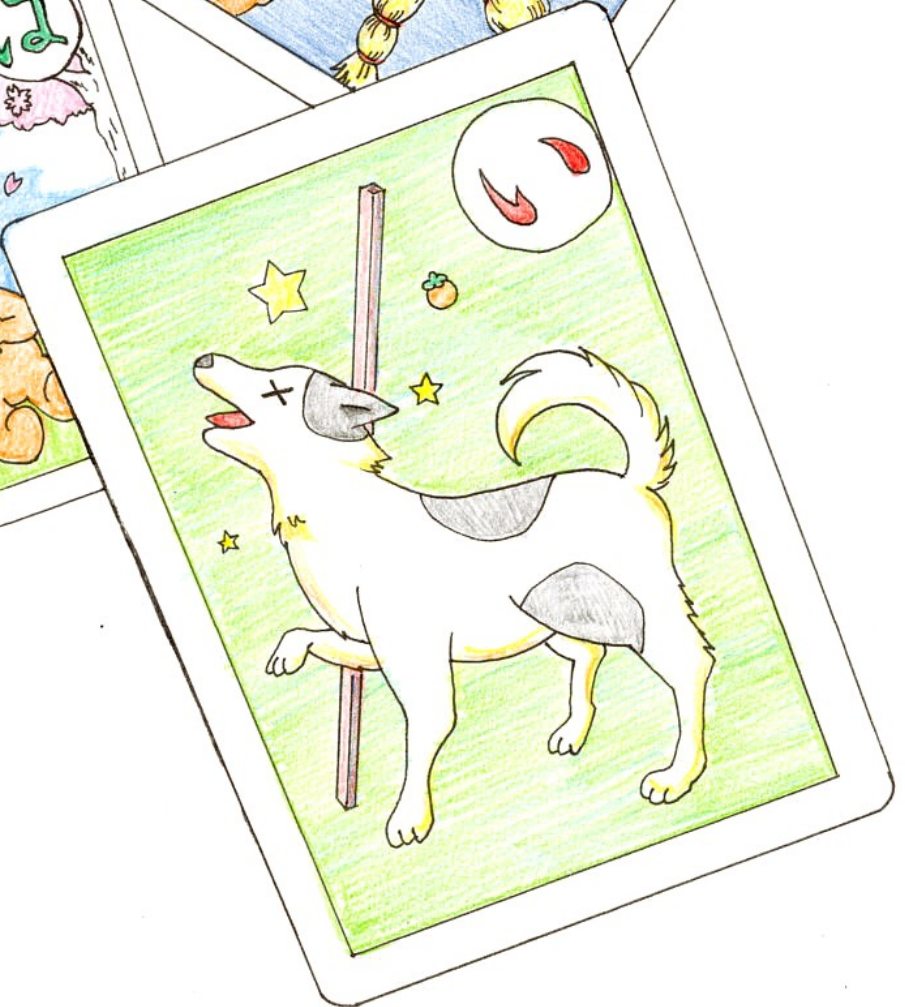
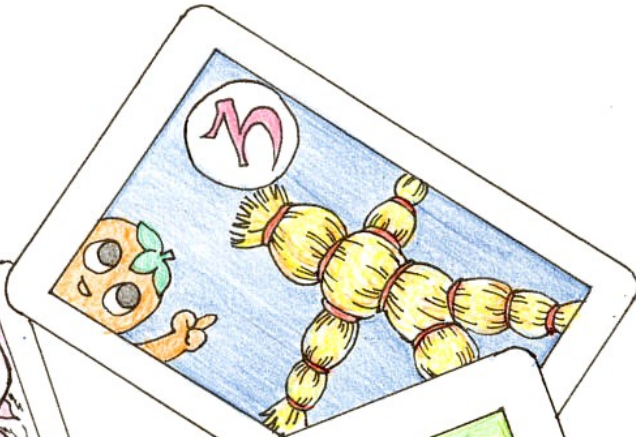
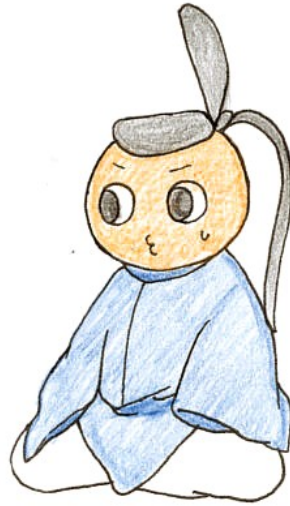
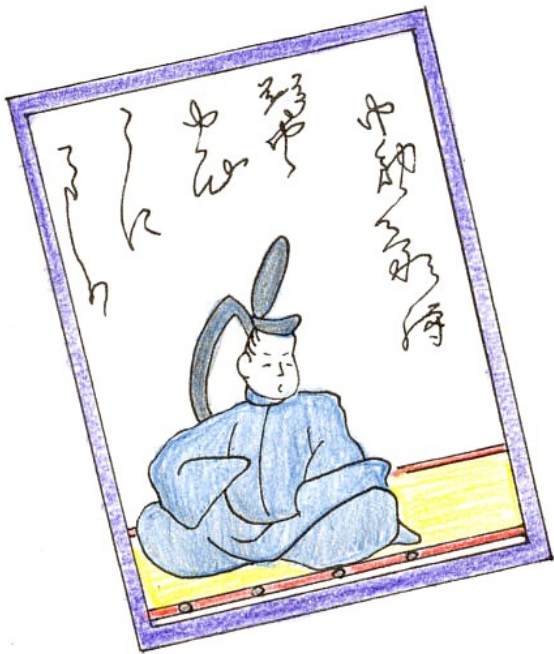
<遊び方> (「本又六」の基本ルール)

- 2人で対戦し、白の駒と黒の駒、どちらにするか決めます。
- 白と黒それぞれ15個の駒を決められた位置に置きます。
- 交互に2つのサイコロを振って、出た目の数の分、駒を進めます。
- 自分の陣地に、自分の駒をすべて入れた人の勝ちです。

※駒の進め方や他にも様々なルールがあります。相手とのかけひきもあるとても複雑な遊びです。

馬駒の置き方と進む方向





いろはかるた

「いろはかるた」は、平安時代(794~1191年)の終わりころからありましたが、カルタになったのは江戸時代(1600~1867年)の終わりころです。こどもが、ひらがなやことわざ、生活の知恵をあそびながら覚えられるようにと考えだされました。はじめは京都でつくられ、大坂(今の大阪)や江戸(今の東京)にも広まり、地域ごと特色あるものがありました。

- ① 江戸:犬も歩けば棒にあたる 京都:一寸先は闇
- ② 論より証拠 : 論語読みの論語知らず
- ③ 花より団子 : 針の穴から天のぞく

百人一首



「百人一首」は、藤原定家(鎌倉時代(1192~1333年)初期)の歌人が100人の歌人の短歌をあつめたものです。カルタになったのがいつなのかはわかっていませんが、はじめは宮中(天皇がいるところ)などであそばれていました。江戸時代になると、町人や商人などのあいだにも広まり、明治時代(1868~1912年)には、お正月に家族でするあそびとしてさらに流行しました。

あそび方
 ・読み手...1人
 ・取る人...何人でもOK

<p>1</p> <p>せふわわか しるなみ しまなよ にめに</p>	<p>2</p> <p>読み手 ↓</p> <p>小野小町 桜の色は 移りけりな いたづらに 我身世にふる ながめせしまに</p> <p>上の句 下の句</p>	<p>3</p> <p>歌人を暗記するのが コツ!!</p>
<p>100枚の取り札をバラバラにならべる。周りに取る人がすわる。</p>	<p>読み手は読み札をよくきり、上の札から読む。上の句~下の句まで読んだら、下の句はもう一度くりかえす。</p>	<p>取る人は、その歌に合う取り札を取る。</p>

★すべての札を読み終えたところで、一番多くの札を持っていた人が勝ち!!

福笑いとは？

めかく かが りんかく か かが え
目隠しをして、顔の輪郭だけを書いた紙の上に
め ぼほ け かが おお 置いていく遊びです。
目・鼻・口などの顔のパーツを置いていく遊びです。
できあ かが いち おもほ
出来上がった顔はたいい、位置がずれて面白い
顔になっているので、それを笑って楽しめます。
福笑いはい 江 戸 時 代 に 登 場 し、 明 治 時 代 か ら
お正月の遊びとして広まったといわれています。
おたふくの絵が 多く使われ、新年から福笑いで
天いがこぼれることが縁起が良いとされ、
お正月にふさわしい遊びになりました。



福笑いの顔には
「おたふく」がよく
使われています



おたふくって？

ふっくらとした顔は福を呼ぶ顔
とされ、多くの福を呼ぶ顔たちの
女性という意味から「お多福」と
名付けられた縁起物です。

あそびかた

- ① 一人が目隠しをします。
- ② 顔の輪郭だけを書いた紙の上に、目・鼻・口・眉の顔の
パーツを置いていきます。まわりにいる人は「もっとうさ」、
「もっとうで」など、並んでいる人に声をかけます。
- ③ 目隠しをはずして、出来上がった顔を見ます。

☆ 「より面白い顔を作って笑わせた人が勝ち」、
「より正確な顔を作った人が勝ち」など
ルールを決めて遊ぶのも楽しいですね。

